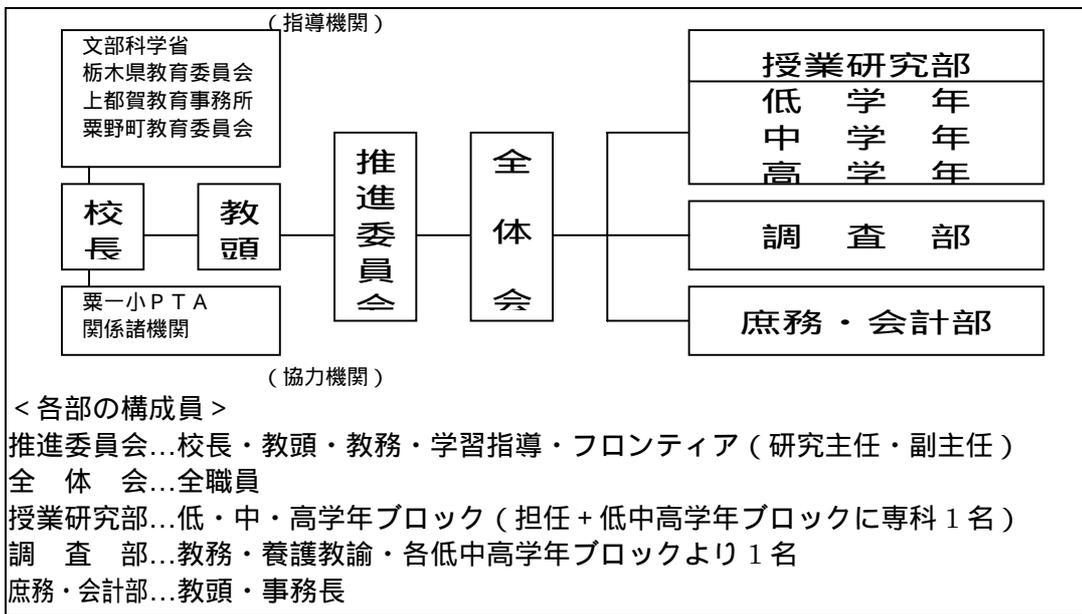




平成16年度	<p>テーマ 「算数科における個に応じた指導実践」</p> <p>仮説・習熟度別学習に応じた単元計画と効果的な教材を開発しながら授業を実践するとともに、適切な支援をすることにより、一人一人に確かな学力がついてくるだろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>&lt; 授業 &gt; ・ T T 及び習熟度別学習の実践（全領域）          ・ コース別学習における効果的な教材の開発及び修正          ・ 児童の学び合い、多様な考え方を育成するための学習過程の定着          ・ 適切なコース選択をさせる手だての工夫（Rテスト・学習計画表）          ・ 自己評価・教師の評価とその活用</p> <p>&lt; 調査 &gt; ・ 定期的な意識調査の実施（3年間の変容把握）          ・ 客観的な調査による学力の定着度（3年間の変容把握）</p>
--------	--

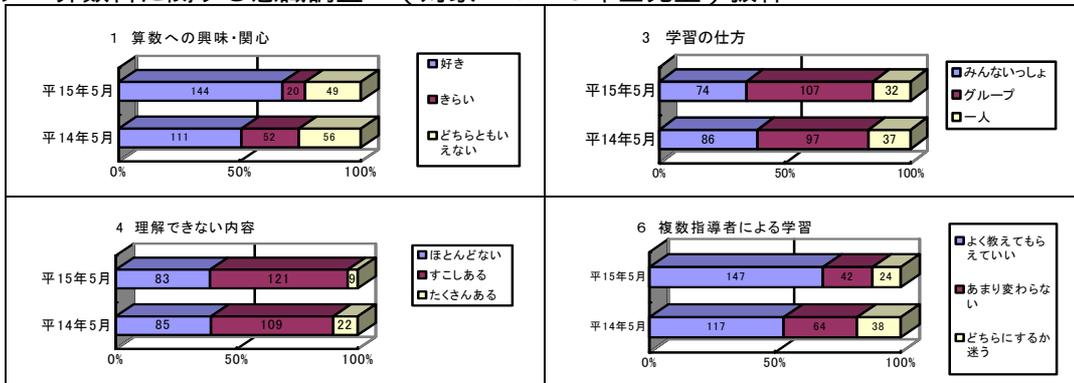
(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

ア 算数科に関する意識調査（対象 1～6年全児童）抜粋



< 分析結果 >

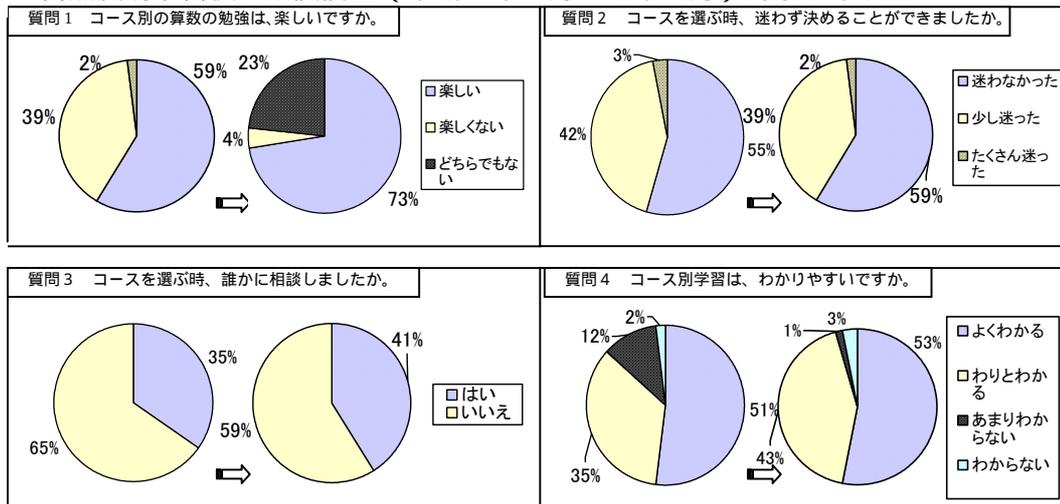
問1の「算数への興味・関心」では、好きになる児童が増えてきた。これは、T Tによる指導や習熟度別学習を進め、一人一人にできた喜びがもてるよう授業改善をしてきた結果と思われる。

これは、問6の「複数の指導者」についての調査結果からいえることである。

問3の「学習の仕方」では、グループでの学習を好む傾向が見られる。そのため、学習内容に応じて一人一人の考えをしっかりとらせた上で学び合いの場としてペア学習やグループ学習を取り入れて指導にあたるよう心がけてきた。

また、問4の「理解できない内容」では、「たくさんある」と答えた児童が少しずつ減ってきている。これは、学び合いの時間を確保し、児童による問題解決や話し合いに力を入れ理解を図ってきた結果である。

習熟度別学習後の意識調査（平成14年10月・15年10月）対象3年以上

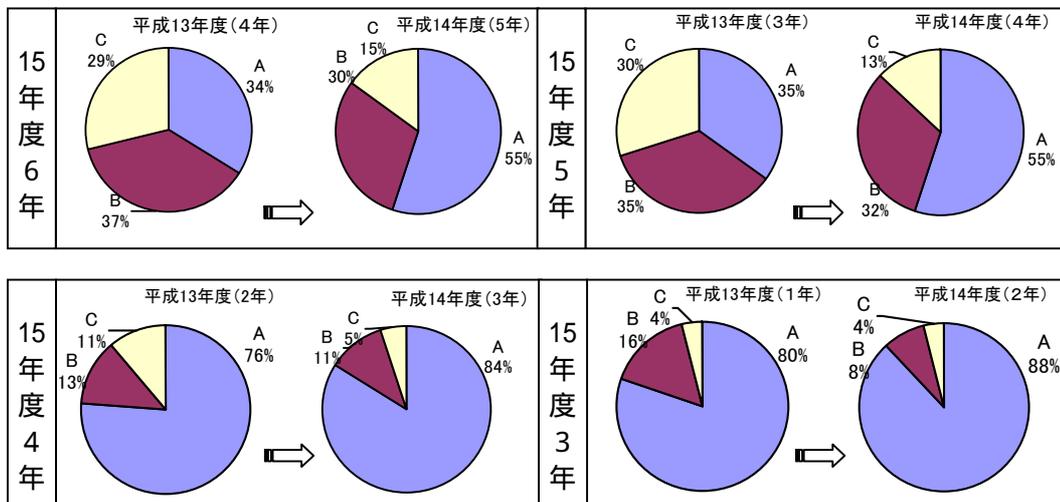


< 考察 >

習熟度別学習は、72%の児童が「楽しい」、86%の児童が「よくわかる」「わりとわかる」と回答している。感想の中でも、とにかく「わかりやすくてよかった」「楽しい」が圧倒的に多く、理由として、基礎コースでは「じっくり考えることができた」「物を使って勉強したのでわかりやすかった」、発展コースでは「難しい問題にチャレンジできたのが楽しかった」「友達と相談できたのでよかった」という回答が多くみられた。

これらの結果、習熟度別学習のよさや有効性を感じることができる。もちろん「斉授業と変わらない」「つまらない」と答えた児童もみられるため、基礎コースと発展コースに応じた指導法の研究をこれからも進めなければならない。

ウ 観点別到達度学力検査の結果（総合判定結果）平成14年・15年月実施



### <考察>

平成13年度の観点別到達度学力検査の結果をみると、学習内容が難しくなるにつれて個人差が大きくなり全領域の総合判定結果では、A群に属する児童の割合が減少している。

そのため、チームティ칭による指導や習熟度別学習を通して複数の指導者による個に応じたきめ細かな指導によりわかる授業を心がけてきた。

また、研究前の平成13年度と平成14年度を比較すると、各学年ともA群の属する児童が増え、B・C群に属する児童が減少してきていることがわかる。

- (1) TTや習熟度別学習にしたことで、つまづいている児童への支援が十分できるようになり、基礎・基本的内容の定着もされてきた。
- (2) 自分に合ったコースで学習することを楽しみにしている児童が、少しずつ増えてきた。
- (3) 児童が興味・関心をもって取り組む教材開発や、習熟プリントによる基礎・基本的内容の定着への努力がされてきた。
- (4) 基本的な学習過程を進め自力解決後の「学び合いの時間」を重視してきたことにより、多様な考えを伸ばすことが少しずつできてきた。

### 2. 今後の課題

- (1) 習熟度別学習における児童の適切なコース選択を支援するための工夫をする。
- (2) 単元計画に位置づけた復習の時間や発展的内容を扱う時間に使用する教材や興味・関心を高めるための教材の開発と充実を図る。
- (3) 算数科における多様な考え方を伸ばすために、基本的な学習過程の定着を進め学び合いの時間を重視していく。
- (4) 学び合いに必要な「話す」「聞く」「話し合う」等の学習習慣を全校で推進する。
- (5) 指導体制や研究組織を見直し、個に応じたきめ細やかな指導をさらに進め、基礎・基本的内容の定着とわかる授業の充実を図る。
- (6) 各学年の連携を密にし、系統的・計画的な学習の推進を図る。
- (7) 定期的な意識調査・学力検査を実施し状況を把握し、指導に生かす。

### 学力等把握のための学校としての取組

1. 定期的な学力調査 国語・算数（年1回2月実施 対象...全学年）  
<目的> 1年間の学習のまとめとして学力検査を実施し、児童一人一人の学習達成状況を把握し、指導の反省をするとともに今後の指導に役立てる。
2. 粟野町基本的内容の調査 国語・算数（年1回実施 対象...全学年）  
<目的> 「読み・書き、計算」の確実な定着と図るとともに、児童一人一人が自らの学習の達成に気づき、学習への取り組みを見直し、学習意欲を高める。  
達成状況や課題を把握し、個に応じた指導を推進する機会とする。
3. 関心意欲に関する児童意識調査（年3回実施 対象...全学年）  
<目的> 定期的に算数科の学習状況を把握し、指導反省をするとともに、児童一人一人に合った指導法の改善や教材開発に役立てる。
4. 習熟度別学習に関する児童意識調査（年1回10月実施 対象...3年以上）  
<目的> 習熟度別学習に関する児童の意識の状況を把握し、個に応じた指導や支援に生かすとともに指導方法の改善に役立てる。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

<平成 15 年度>

上都賀地区学習指導研修会開催

目的 学習指導の基本的な考え方、とらえ方を確認するとともに、その意義・重要性を認識する。また、学習指導要領が目指す基礎・基本の確実な定着を図るため、個に応じた指導方法・指導体制のあり方について研修を深める。

日時 平成 15 年 6 月 13 日 (金)

場所 粟野町立粟野第一小学校

テーマ 「児童が主体的に学び、一人一人に確かな学力をつけるために」  
算数科における教材の開発と指導方法の工夫改善を中心として一

対象 上都賀地区小・中学校学習指導主任

内容 研究の概要説明

研究授業

4 年「分数」2 C 3 T による習熟度別学習

6 年「立体」1 C 2 T による習熟度別学習

2 学年とも、発展コースでは、ゆとりの時間に発展的な内容を扱う時間を設定するとともに、単元テスト後結果によりコースを再選択し定着や習熟が図れるよう計画した。

研究協議 テーマ「個に応じた指導の充実に向けて」

粟野町学習指導研修会開催

目的 学習指導に対しての基本的な考え方、とらえ方を確認するとともに、その意義・重要性を認識する。また、学習指導要領が目指す基礎・基本の確実な定着を図るため、個に応じた指導方法・体制のあり方について研修を深める。

日時 平成 15 年 10 月 27 日 (月)

場所 粟野町立粟野第一小学校

テーマ 「児童が主体的に学び、一人一人に確かな学力をつけるために」  
算数科における教材の開発と指導方法の工夫改善を中心として一

対象 粟野町小・中学校教員

内容 研究の概要説明

研究授業 授業研究

2 年「三角形と四角形」T T による学習

5 年「小数のわり算」1 C 2 T による習熟度別学習

2 学年...課題解決にストーリー性を用い興味・関心を高めて学習に取り組ませ、定着のためにゲームを取り入れた。

5 学年...基礎コースは、自分の力でできた達成感をもてるように支援した。発展コースは、単元内容に関連した問題作りをして解き合う授業を展開した。

<平成 16 年度>

学力向上フロンティアスクール公開研究発表会開催予定

日時 平成 16 年 11 月中旬

場所 粟野町立粟野第一小学校

テーマ 「児童が主体的に学び、一人一人に確かな学力をつけるために」  
算数科における教材の開発と指導方法の工夫改善を中心として一

内容 研究の概要説明

公開授業 「算数科」

低学年 (T T) 中・高学年 (習熟度別)

対象 上都賀地区小・中学校教員

参加方法 粟野第一小学校公開研案内参加申込み (平成 16 年 7 月頃配布)  
(上都賀地区小中学校及び、県内フロンティアスクールに配布)

---

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】     6学級以下     7～12学級  
                   13～18学級     19～24学級  
                   25学級以上
- 【指導体制】     少人数指導     T・Tによる指導  
                   一部教科担任制     その他
- 【研究教科】     国語     社会     算数     理科  
                   生活     音楽     図画工作     家庭  
                   体育     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有     無